

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 21

Thelonious Monk【セロニアス・モンク】

～即興演奏における独特のスタイルを確立した偉大なジャズ・ピアニスト～



写真提供：ユニバーサル・ミュージック

Profile

1917年10月10日、ノース・カロライナ州ロッキー・マウントで生まれる。本名はセロニアス・スフィア・モンク（Thelonious Sphere Monk）。4歳から5歳にかけて家族と共にニューヨークに移住。6歳の頃からピアノを習い始め、11歳から正式な音楽教育を受け始める。その頃に影響を受けたのはデディ・ウィルソンやストライド・ピアノの名手たちといわれる。高校を中退後は、福音伝道者の楽団と共にピアニストとして2年間ほど全米を旅して回り、教会のオルガンを弾くなどして腕を磨いた。10代後半の頃からジャズ演奏の仕事が見つかり始め、40年頃から「ミントンズ・プレイハウス」でディジー・ガレスピー、チャーリー・パーカー等と共演。42年にはコールマン・ホーキンスのグループに参加。47年に自己のグループを結成し、ブルーノートと契約。その後は自己のグループで活動続けた。57年にジョン・コルトレーンを加えたカルテットで「ファイヴ・スポット」に6ヵ月の長期出演。59年以降は70年までチャーリー・ラウズを迎えたカルテットを率いて活動。その後、精神障害の症状も次第に悪化してゆき、ほとんどの時間を自宅で妻のネリーと過ごすようになる。75年「ニューポート・ジャズ・フェスティバル」でカムバックを果たすも、以降は再び体調を崩し第一線から退いていた。82年2月17日ニュージャージーの病院で脳溢血のため死去。享年64歳。生前はその奇行や謎に満ちた私生活ばかりが取り沙汰されることから正統に評価されることが少なかったが、その死後時間を経てから徐々に若いミュージシャンを中心にその偉大な才能と功績が見直されてきた。そして、現在ではジャズ史に輝く偉大な作曲家、ピアニストとして広く認知されている。

モンクの快演&好演が刻印された歴史的名盤！



プリリアント・コーナース セロニアス・モンク

(ユニバーサル・ミュージック:UCCO-9029)

セロニアス・モンク (p)、
アーニー・ヘンリー (as)、
ソニー・ロリンズ (ts)、
クラーク・テリー (tp)、
オスカー・ペティフォード (b)、他

1. プリリアント・コーナース 2. バルー・ボリヴァー・バルース・アー
3. パノニカ 4. アイ・サレンダー・ディア 5. ベムシャ・スینگ

神秘的な空間！ 伝説のファイヴ・スポット・ライブ！！



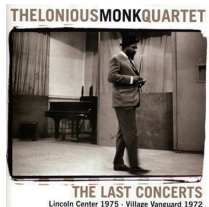
ミステリオソ セロニアス・モンク

(ユニバーサル・ミュージック:UCCO-9112)

セロニアス・モンク (p)、
ジョニー・グリフィ (ts)、
アーマッド・アブダル・マリク (b)、
ロイ・ヘインズ (ds)

1. ナッツィ 2. ブルース・ファイヴ・スポット 3. レッツ・クール・ワン
4. イン・ウォーク・パド 5. ジャスト・ア・ジゴロ 6. ミステリオソ
7. ラウンド・ミッドナイト 8. エヴィデンス

モンクの生前最後のライブ演奏を捉えた作品！



The Last Concerts 1972 and 1975 Thelonious Monk

(Rare Live :RLR-88643 [Import])

Thelonious Monk (p), Paul Jeffrey (ts), Larry Ridley (b), Dave Holland (b), T.S.Monk (ds), Charlie Rouse (ts), Larry Gales (b), Ben Riley (ds)

- [Disc-1] 1. Announcement 2. I Mean You 3. Ba-Lue Bolivar Ba-Lues-Are 4. We See 5. Misterioso (他、全 9 曲)
[Disc-2] 1. Hackensack 2. Epistrophe (Theme) 3. Evidence 4. Blue Monk 5. Rhythm-A-Ning 6. Bright Mississippi (他、全 10 曲)

偉大なるモンクの主張

モンクの功績の 1 つは、それまでコードに束縛されがちであったジャズの即興演奏に、空白・間・自由を与えたことだろう。メロディやテーマに忠実ながらも独特のリズムと間を取りながら、独自の和声・不協和音を絶妙のタイミングで響かせる。そして、その天性の平衡感覚をもってオリジナルでユニークな世界を確立させた。その頑ななまでの信念と自らの音楽に一切の妥協を許さない強靱な精神力、謎に満ちた私生活や行動から“狂気”“バップの高僧”などと称されたが、モンク自身は純粋に音楽・ジャズを愛していただけなのかもしれない。長い間多くのミュージシャンやメディアから敬遠され続け、正当な評価を得るまでにかなりの時間を有したが、モンクは首尾一貫して自分の主張を貫いた。私生活でもステージ上でも常に自分の感じたままに行動し、一度聴けばモンクの音だと認識させてしまう。それこそがアーティスト本来の姿なのかもしれない。

モンク入魂の 1 枚といえる 1956

年録音の作品。『サキ・コロ』を吹き込んだ S・ロリンズと、C・ブラウンとの双頭グループで旋風を巻き起こした M・ローチの参加も重要だが、A・ヘンリーの前衛的なプレイも光っている。また、この作品には逸話がある。ラストの「ベムシャ・スینگ」のみ録音日が異なり、ベースは P・チェンバースが担当している。どうやらモンクと O・ペティフォードが大喧嘩をし、以後も絶縁状態となってしまったらしい…。事の真相は定かではないが、実際ジャケットの表にペティフォードの名前が記載されていないのだ…。そんな逸話とは対照的に普段はムスッと無表情がほとんどのモンクだが、このジャケットでは何とも爽やかな笑顔を見せている。そんな意味でも歴史的名盤！？

ジョン・コルトレーンは嘗て

1957 年の長年に渡るモンクとのファイヴ・スポット出演機会に大飛躍を遂げた。それから約 1 年後、今度はジョニー・グリフィンが伝説のファイヴ・スポットで火を吹いた。そのグリフィンの最高のソロが聴けるのがこのアルバム！ アーマッド・アブダル・マリク (b)、ロイ・ヘインズ (ds) を従え、モンク特有の間とグリフィンの熱いブローが独特の緊張感を生み出す。特にタイトル曲「ミステリオソ」が素晴らしい。作品を通してモンクの個性と風格がファイヴ・スポット全体に充満しているようで、正にモンク・ワールドを体感できる作品だ。尚、『セロニアス・イン・アクション』では、ファイヴ・スポットにおけるモンクとグリフィンのセッションの続編が聴ける！

これまで Black Lion からリリー

スされていた 1971 年の演奏がモンクの生前最後の録音とされていたが、新たに 72 年 6 月にビレッジ・パンガードに出演した際の録音と 75 年にリンカーン・センターで行われたコンサートの録音が発掘された。そして、その 2 つの貴重な記録を収めたのがこのアルバム！ 72 年のビレッジ・パンガードでのライブではチック・コリアのバンド“サークル”解散直後のデフ・ホランドがベースを弾いていることも興味深い。75 年のリンカーン・センターでのコンサートでは息子の T.S. モンクがドラムを叩いており、引退生活から一時的に復帰した際の演奏ということで大変貴重な記録だ。モンクの新たな伝説を収めているという点でもジャズ・ファンには必聴の一品！

T.S. モンク

ご存知の方も多いと思うが、モンクの息子 T.S. モンク (Thelonious Sphere Monk, III) は 1980 年に 1st アルバム『House Of Music』を発表する等、ジャズ・ドラマー、コンポーザー、アレンジャーとして 60 歳を迎えた現在も活躍している。

モンクのドキュメンタリー映画

家族の証言や 1967-68 年にマイケル・クリスチャン・ブラックウッドによって撮影された映像でセロニアス・モンクの生涯を綴ったドキュメンタリー映画『ストレート・ノー・チェイサー』(1988 年作品) は、シャロット・ズエリガンが監督、クリント・イーストウッドが製作総指揮を務めた。孤高で気難しいと言われたモンクの姿をスタジオやツアー、舞台裏等で見事に捉えており、数々の名演奏も楽しめる。一見の価値あり！